



原一中だより

第 1 2 号

令和7年3月21日(金)発行

令和6年度 重点目標

未来をみつめ ともに輝く生徒

感動！最高の卒業式でした

3月13日(木)、第78回卒業証書授与式が挙行され、卒業生127名は、3年間の輝かしい思い出を胸に、新しい世界へ巣立っていきました。

当日は、南相馬市議会議長様をはじめ多くのご来賓をお迎えし、厳粛な中にも感動的な素晴らしい卒業式となりました。中でも、卒業生代表の坂井さんの答辞は、3年間を振り返りながら、様々な経験をとおして成長できたことへの感謝を述べたものであり、多くの人の胸を打つものでした。その一部を紹介します。

「初めての試みとなった体育祭。ゼロからの企画運営はとても難しく、戸惑いながらも、大成功を収めることができました。原町一中の新たな伝統を築き、残すことができたことは、私たちの自信となりました。大いに盛り上がったあの日を忘れることはないでしょう。」

「クラスが一致団結して臨んだ合唱コンクールは、私たち3年生にとって、特別なものとなりました。1、2年生の時とは比べものにならない熱意を持って、少しの時間を惜しみながら、何度も何度も練習を重ねました。本番では、クラスそれぞれの個性豊かな円陣から始まり、会場全体を感動の渦に巻き込む、全クラスが最強となる合唱を披露しました。今年度の文化祭は間違いなく「最高到達点」をも越えた文化祭でした。」

「私たちは、自分で決めた道を信じ、それぞれの旅路を、前途洋々たる未来に向かって歩んでいこう。僕は3年生のみんなが大好きです。」



毎年、卒業式の式歌を聞いては心が大きく揺さ振られますが、今回は、これまでをさらに越える声量が加わり、体育館中に響くすばらしい合唱「旅立ちの日に」となりました。



令和6年度「未来への手紙」 3年鈴木さん 2年連続で選出

令和6年度、福島県では、昨年度に引き続き、東日本大震災・原子力災害の記憶や教訓を次世代に伝承するため、中学生が震災学習等、震災を学んで感じた素直な思いを「未来への手紙」として募集していました。

今回は、前年度よりも約500通多い1238通の応募があり、県の震災追悼復興祈念式典で紹介された3作品に、見事2年連続で3年生の鈴木さんの作品が選出されました。その全文を紹介します。

福島県は、「うつくしま・ふくしま」のキャッチフレーズのとおり、海も山もあり、美しい景色が広がる場所です。

しかし、東日本大震災は一瞬でその美しい景色を壊し、色とりどりだった世界を灰色に変えてしまいました。あれから14年が経ち、福島は少しずつ色を取り戻し、力強く前向きに未来を明るく照らしています。

これからさらに「うつくしま・ふくしま」を取り戻すためには、私たち若い世代が「ふくしまプライド」を持ち、地元を盛り上げていくべきではないでしょうか。

震災を乗り越えた「強さ」、そしてお互いを助け合う「優しさ」を持ち合わせた故郷の、美しい風景や各地方の伝統文化が、これからも守られ続け、より多くの人々が魅力あふれる福島に訪れるようになることを願っています。